

極限状態 救うすべなく

証言

3.11大震災

目の前に気仙沼湾を望む気仙沼市錦町の介護老人保健施設「リバーサイド春園(しゅんぼ)」。東日本大震災の大津波は建物の2階まで押し寄せ、車いすの高齢者をのみ込んだ。生き残った人も寒さで次々に命を落とし、犠牲者は最終的に59人になる。避難訓練の想定を上回る津波に、なすすべもなかった職員たち。「私たちに何ができて、何ができなかったのか」と自問自答する。

(丹野綾子)

眼前

津波は、建物2階のデイルームに集まっていた車いすの高齢者たちに襲い掛かった。悲鳴を上げる間もなく、車いすごと流される。職員たちは無我夢中でテーブルやカウンタ―に引き上げた。

施設長の猪苗代盛光さん(63)も胸まで水に漬かりながら両腕で2人を抱え、固定したいすに上げ



高齢者59人が犠牲となった気仙沼市の介護老人保健施設「リバーサイド春園」。建物前の地蔵に新しい花が手向けられていた(7月上旬)

ぐに移動できる。6階の津波にも耐えられるので、2階を災害時の避難所にしていった。

震災の津波は想定を大きく上回り、2階まであふれた。高齢者46人が水にのまれて亡くなり、1人が行方不明(後日、死亡を確認)になった。

猛火

波が引いてからも猪苗代さんは、第2波到来に備えて助かった86人を屋上に避難させるかどうか迷った。外は雪が降っている。「全員すぬめれの状態、体力のない高齢者は低体温症でやられてしまう」と考え、四つの部屋に高齢者を集めた。ふと窓の外を見ると、信じられない光景が広がっていた。建物の周りが火の海だった。破壊され

誤算

震災当日、リバーサイドには入所者100人、通所の利用者33人がいた。平均年齢は83歳程度で、大半が車いすを利用。地震発生後、職員53人はすぐに2階デイルームに

性「助けて」と標首をつかまれた。身動きできないまま、目の前でお年寄り沈んでいった。猪苗代さんは「1人を助けようとしたら、別の1人を離さなければならなかった」と振り返る。

全員を避難させた。建物は鉄筋コンクリート2階。2階床面の高さは土台が高いため7尺を超す。隣には津波避難ビルでもある3階の市総合市民福祉センター「やすらぎ」がある。市の防災計画では、建物の3階以上に避難することになっており、猪苗代さんらは訓練で、やすらぎの3階に避難することを検討した。だが、車いすの高齢者を移動させるには時間がかかった。リバーサイド2階ならす

たタンクから漏れ出た重油に引火するなどして、施設がある鹿折地区一帯は大火災に見舞われた。爆発音が響く。「火が来たところにお年寄りを避難させようか、それだけを考えて」と猪苗代さんは言う。

極限状態の中、認知症のお年寄りが「何でこんな所にいるの」と繰り返す。別の高齢者が「何度言ったら分かるの。津波が来たんだよ」と声を荒らげた。

26面に続く

酷寒の避難所 犠牲拡大

「入所者帰宅」職員決断

1面から続く

延焼を免れた気仙沼市の介護老人保健施設「リバーサイド春園」は3月12日朝、助かった高齢者86人を近くの鹿折中体育館に避難させる。施設長の猪苗代盛光さん(63)をはじめ職員たちは3人がかりで車いすを抱え、膝上まである泥の中を進んだ。たどり着けば、生命

の危険は遠のくはずだった避難所。しかし、そこには別の悲劇が待っていた。

「避難所は介護が必要が高齢者を置いておける場所ではない」。猪苗代さんが語るたび、お年寄りが倒れ、亡くなったことが分かった。猪苗代さんが、その光景を思い起こして唇をかむ。

その後も1日に1人、2人と亡くなる人は相次ぎ、市立病院に救急搬送されてから死亡した人も

含めると、12人が津波で助かった命を失った。

「避難所に向かう前、千田さんらは三つの部屋のベッドに寝かせた46人の遺体の顔を、タオルで丁寧にぬぐった。皆、口や鼻の中まで泥が入っている。目を開いたままじりじり、死後硬直で閉じられなくなった高齢者もいた。

「助けられなくてごめんさい」。謝りながら涙が止まらなかった。

4月上旬、猪苗代さんは亡くなった高齢者の遺族の家を回り、震災時の状況を説明した。

「お健施設は在宅復帰を目指す場所なのに、遺体で家に帰すことになり心苦しい」とわびた。津波で亡くなった84歳の女性の三女(56)は「遺体の顔は息苦しそうにゆがみ、かわいそうだった」と声を震わせる。

施設の責任を問う気持ちはない。「自分たちを責めないでほしい。亡くなった母の分まで、他のお年寄りを大切にしてほしい」と気遣う。

現在、リバーサイド春園は市内の病院の2階を借り、13人の高齢者を預かっている。市内の施設が被災して在宅の高齢者が増えたこともあり、6月に訪問看護ステーションも開設した。

リバーサイドの再建を目指す猪苗代さんは「震災時に何ができて何ができなかったか、職員と話し合いたい」と言う。

「一日も早く高齢者が安心して暮らせる環境を整えたい」。それが亡くなった高齢者に報いることにもなると、猪苗代さんは考えている。

「一日も早く高齢者が安心して暮らせる環境を整えたい」。それが亡くなった高齢者に報いることにもなると、猪苗代さんは考えている。

「一日も早く高齢者が安心して暮らせる環境を整えたい」。それが亡くなった高齢者に報いることにもなると、猪苗代さんは考えている。

「一日も早く高齢者が安心して暮らせる環境を整えたい」。それが亡くなった高齢者に報いることにもなると、猪苗代さんは考えている。

この段以下の文字が不鮮明なため、以下にテキスト化しております



津波にのまれ、泥だらけになったお年寄り用の歩行器

11日、気仙沼市のリバーサイド春園